

理事長退任のご挨拶

新谷 友良

さる 5 月 28 日に開催されました第 38 回通常総会で理事長を退任させていただきました。2012 年 6 月の就任から 11 年になります。皆さまのご支援で何とか務めることができました。ありがとうございました。

50 歳を過ぎてから、それまでと全く違う世界が広がりました。54 歳の 6 月に障害者手帳を貰いに区役所に行き、窓口の人に中難協を紹介されて、すぐに歩いて協会事務所に行って入会しました。同窓会などは別にして、会社以外の団体に加わるのは初めてです。その時に「高齢難聴者生きがい講座」の話を伺いました。「私は 54 歳ですが、参加して大丈夫ですか？」と生真面目な質問をしましたが、「会場に行けば断られることはないと思いますよ」といわれて、月 1 回の講座に通い始めました。そこで講座の助手の人に「手話の勉強をするのでしたら、東京都の手話講習会がありますよ」と囁かれて、その年の 10 月から始まった東京都中途失聴・難聴者手話講習会の入門クラス（三田）に入りました。

数カ月の間に見える景色が大きく変わりました。手話講習会から手話サークル、読話講習会から読話サークル、あれよあれよという間に、人の輪が広がりました。それから今まで 20 年間、いろいろな人から教わり、癒されることがいっぱいありました。後半は協会の役員の立場で協会外のような障害を持った人との交わりも増えて、会社どっぷりだった人間にとって大変大切な時間を過ごさせていただいたと感謝しています。

2019 年末から新型コロナウイルス感染拡大が始まりました。人の交流が大きく制限され、講座・講習会・サークルなど協会の集まりが大変困難になり、交流が失われて孤立することが多くなりました。この結果、2019 年度末の協会員数 618 名が、2022 年度末には 508 名に減少しています。協会員の数の減少は、協会を支える人材や活動の資金に大変大きな影響をもたらしていますが、それ以上に協会の外の聞こえに困っている人へ手を差し伸べることが難しかったことを深刻に感じます。

聞こえの障害は、ライフステージごとに異なった問題がありますが、人と人の交わりを困難にする障害であることには変わりはありません。そのような中で、生の声を聴く、顔を見る、匂いや温かみを感じることができる集まり・交流は、思っている以上に大切な、意味のあることと思えます。新しい理事長のもとで、そのような人の出合いの場がさらに広がることを祈っています。